令和5年度 学校評価表

(中間・<u>最終</u>)

学校名 三原市立沼田小学校

校番(10)

а	学校教育目標	・ 心豊かに かしこく たくましく					ミッション】(自校の使命) 志を抱き、自らその実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 ビジョン】(自校の将来像) 組織の一員としての自覚をもち、新たな教育活動の創造に向け、協働できる教職員が創る学校							
	評価計画					自己評価				自己評価	改善方策		学校関係者評価	
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目·指標	g 目標値	10 月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	ー イ	評価の	m コメント
確かな学力	主体的で探究 的に学ぶ児 童を育成す	基礎・基本の 学力の定着 思考力・判断 力・表現力の 育成を図る。	・授業改善 基礎・基本の学力の定着 ・帯タイムや家庭学習による繰り 返し学習の徹底 ・漢字検定・計算検定テスト(学期 毎)の取組	・学力調査NTRで目標値 の達成 ・算数科の単元テスト 知識・技能平均70点未 満、思考・判断・表現平 均50点未満 O人 ・漢字検定・計算検定テ スト合格 ・児童アンケートの肯定 的評価	前年度平 均より アップ O人 90% 80%以	全53.6 国54.4 算52.8 理51.8 知2人人 96% 98%	全53.6 国54.4 算52.8 理51.8 知1人 思2人 98% 100%	103 113 94 100 98 96 109 111	В	NHTの展景、全体としては前車度を15杯ペントと贈っている。 特に、国語時では非常度も受検している全での学年で敦雄が 向上している。 "電光テストの総果、全体の約9割の児童が、「知識・技能」の平均点を10点以上であ る。1~4年生については、金貨が自職をと贈っている。 (選字・計算検定の結果、合格(90点以上)になった児童は漢字 リストである。 (選字・計算検定の結果、合格(90点以上)になった児童は漢字 男している。また。NHT・22~4の児童に対けを当初上12分 男している。また。NHT・22~4の児童に対けを当初上12分 「他界でからから、また。NHT・22~4の児童に対けを当初上12分 「他界でクーケーが発展、全体しては全ての項目で資産的経 値が50%を上贈っているが、「接着の考えを聞くた。自分の対 を考えたリオるようにしています。」「話し合いでは、考え方のの比 い考え方やきまりかないか考えたりしています。」「今日の学ョ が分かったかとうると見つけたり、見つけたとからようとし い考え方やきまりなないか考えたりしています。」「今日の学ョ の項目では単すっ、「今日の学書で分かったととこれから まっているは、「本日、「中国学」で分かったととしている。 またりにないます。」「の項目では、全学年が50%以上の青史の経 のまといるといる。」「中国学」であるといるといる。 は、日本の学のでは、「中国学」であるといるといる。 は、日本の学のでは、「中国学」であるといるといる。 は、日本の学のでは、「中国学」であるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといる	・ 自マス作文」に継続して取り組み、個別指導で書きる経路を増やしていく、 ・児童中心の授業展開を進め、ノート指導の充実を 図る。また、ノートで変添し、良いノートの掲示をする など、投票改善に取り組む。 はつ学期でにかり組む。 はつ学期では、アウストートなどを活用して復言させるととしいて、アシストンートなどを活用して復言させるととしいて、アシストンートなどを活用して復言させるととして、多様な出題パターンに関係を習得させるなど、全ての理由の宇宙の土台作りを目指す。 ・	0		○中間報告より、最終報告の数値がよくなっているのは学校全体で取組んでいる 証拠である。学校主たちを一人ひとり丁寧 に見取って根気よく繰り返し指導されている。 登録を行い、基礎学力の定着を図られている。 の成果を問うのではなく、過程を評価されている。指導方法もにてを活用するなど、より児童に分かりやすく工夫されている。 括選する場合も、本質を大切にしてほしい。 ○ 少人数・複式学級の実態を活かした児童同士の学び合いのある幾業改善に引き続き取り組んでいただき、主体的に学ぶ児童を育成していただきたい。
豊かな心・健やかな体	心も体もたく ましい児童を 育成する。	認め合い支え 合い、自ら伸び るともに伸び る児童を育成 する。	自分たちで決めた目標の達成に向けて粘り強く取り組むことを通して、自己有用感や集団の意識を向上させる。 ・成長の木・生活チェック	・自己肯定感の割合 「前と比べて良くなったと 感じている児童の割合」 ・児童アンケートの肯定 的評価 「体を動かすのが好きと 答えた児童の割合」等	80%	100%	100%	125%	Α	・児童アンケートの結果、「前の自分と比べて良くなったことやできるようになったことがある」と自覚する自己肯定感の割合は100分をであり、昨年度比十21%、前回の結果からも変わらめ高値であった。 ・「めたっニチャレンジ」にかあてをもって取り組んではる児童」は前回とも変わらず100分。「店会しなったことを書いている児童」は前回は39%であり、ラなる日々の取り組みが自己肯定感を高めている」とが何えた。 ・保護者アンケートの結果でも、「わか子は、自分の良いところを知っている」の肯定的評価は80%以上であり、目標を上回ることができた。 ・児童アンケートの結果、「株を動かすのが好き」と答えた児童の割合から肯定的な結果が88%であり、前回より、43%増充力った。 ・新体カテストでは、昨年度の課題であった「20のシャトルラン」「50m走」「ボール投げ」の結果と今年度の結果を比較してみると、「ボール投げ」の結果と今年度の結果を比較してみると、「ボール投げ」は、収益していまり、150m走」「ボール投げ」の結果と今年度の結果を比較してみると、「ボール投げ」の結果と今年度の結果を比較してみると、「ボール投げ」の結果と今年度の結果を比較してみると、「ボール投げ」は、収益していた。	・「成長の木」「気持ちのよいあいさつ」の平均達成値は100%で日標を達成できているので、この2点については、来年度も助報を継続し、高い自己肯定感を維持していな。 「ハイパーの一切の結果分析を行い、集団作り等の取組に生かしていく、月曜日の朝学習は、学幾ソーシャルスキルを取り入れ、自己有用感や集団の意識を向上させてしく。 ・児童の「体を動かして、楽しかった」という意欲を維持、持たせるために「アクティブ・チャイルド・プログラム」を取り入れていく。 ・保育委員会を中心に、朝や休憩時間にレクリエーションを計画・楽施させ、楽人(運動する機会を増やす。 ・なわとびやドッジボール、持久走などに全校で取り組み、運動をする機会を増やす。	0		○様々な実態の児童がいる中、興味をもたせてやる気を引き出す指導、できたことをほめる指導を繰り返しされているのがよい。日々の丁寧な取組が、自己肯定感の肯定的評価100%につながっている。 ○体を動かすことが好きな児童を増やす取組として、縦割り班での活動を仕組まれているのがよいと思う。月曜日の朝の帯タイムを活用することでも、週始めの楽しみになりよいと思う。体育の授業では、表現活動があり、メンスは安全で体幹を鍛えられるよさある。学習内容を工夫されているのがよい。
信頼される学校	学校と保護 者・地域及び 関係機関との 双方向の信 頼関係を構築	た信頼される 学校の構築を	働き方改革の推進 校務支援システム等、ICT機器を 活・ACゲシュール管理の徹底を図 る。 ・各部、各委員会の組織的な取 組を進める。 ・PDCAサイクルを充実させる。 ・PDCAサイクルを充実させる。 積極的な地域教材や人材の活用 ・学校行事や教科等で地域人材 や地域教材を活用した活動や学 習を進める。 積極的な情報発信 ・ICT機器を活用して、学校だより、HP、学級だより等で積極的に 学校や学級の様子を発信する。	・定時退校日の完全実施。 ・年間を通して勤務時間外の上限時間を超えない。 ・保護者や地域、関係者の学校理解の肯定的評価割合。 ・地域アンケート 保護者アンケート (7月・12月)	100% 90% 以上	地域学 77.4% 情報発 信88.4%	地域学 78.0% 情報発 信4.0%	100% 86.7% 104%	A B	・水曜日の定時退校が習慣化し、水曜日以外でも、業務内容によって最終退使時刻18:00より早く退校することができた。 ・時間外勤務の時間は、上限45時間より大幅に少なく、多い職員で28時間以内であった。夏休かそ伏み等長期休業中では、時間内の勤務になるよう、早めの予定を開加するなどスケジュール管理の徹底ができた。 ・2学期は沼田小学校周辺の自然散策やそばづくり全校そば打ち、ちんたんかんなど、地域人材や地域教材を活用した「空を計画的に実施した財・地域の大き、指に活動したり本のを楽ししたり、地域の方と一緒に活動したり本のを楽ししたり、地域の方と一緒に活動したり本のを楽したり、地域の方と一緒に活動したり本のを楽ししたり、地域の方と一様に活動したり本のを楽したり、地域の方と一様に活動したり本のを楽したいもい。して「機器を活用した情報発信や、すぐ一るによる学級だより、学校だよりの配信を月に「回以上定期的に行った結果、保護者アンケート「学校だより、定等級だより、すぐ一名等で学校・学級の様子が伝わった」の自定的評価は940%で目標値を上回った。	・週1回水曜日の定時を引き続き継続し、早めに 予定を周知し、自分でそれ以外の日を定時退校 できるよう選択できるようにしていく。 ・各部内で業務を担当に割り振りし、業務の偏り がないようにしPDCAサイクルを回し、来年度に 向けて業務改善を行っていく。 ・準衛生委員会を活用し、職員の意見を集約しながら精査し業務改善を進めていく。 ・児童は地域学習を楽しんでいる(例:2学期の 発表参観日等でも、5・6年は児童は地域学習で 学んだことを免表するなどので、児童が家庭で も地域学習について話題になるよう。地域学習の でいていて話題になるよう。地域学習の がは様子について話題になるよう。地域学の ・学級の様子については、すぐ一る等を活用し、 担任以外でも情報発信できるようにしていく。 ・児童一人一人の様子について、担任が細かく 連携を取っているので、引き続き行って学校と保護者の信頼関係を構築していく。	0		○働き方に対する教職員の意識も醸成されてきており、在校時間の縮減にもつながっている。 ○地域の教材を活用した学習を長年されており、沼田小学校の伝統になっている。引き続き取り組んでいただきたい。地域の事が好きで誇りに思う児童を育成していただきたい。十年報モラルの指導は、年齢に合わせて繰り返し取り組んでいただきたい。その際、保護都り組んでいただきたい。その際、保護者に自然をし、家庭と学校が連携して取り組んでいただきたい。その際、保護者にり組んでいただきたい。その際、保護者にり組んでいただきたい。その際、保護者にり組んでいただきたい。その際、保護者にり組んでいただきたい。
	1			l .	l			【i·自己評	TT =37/			rı. e	之校関係者	TA TA TA TA TA TA TA TA